

データ番号	413
効用の種類	物理・化学作用による環境改善効用
見出し	インパチェンスで団地浄化槽の汚水処理が可能
出典	<p>（『生活空間における花と緑の効用・機能に関する調査報告書』（財）日本花普及センター1996）</p> <p>「花卉の水耕栽培による団地浄化槽2次処理水中の栄養塩除去」 平野浩二</p>
内容	<p>家庭園芸向きの花卉である*インパチェンスやスペアミントで団地浄化槽の汚染物質であるT-N、T-P、BODを除去できることがわかった。団地の敷地内にスペアミントおよびインパチェンスを係留した浮上床に定植し、長さ40mの水路に設置し、2次処理水を1日4m<sup>3</sup>流す環境で水耕栽培したところ、根が発根して発達する5月～10月にかけての汚水物質除去率は、**T-Nが約60%、T-Pが90%、BODが約75%であった。</p>
備考	<p>*水質浄化植物としてはホテイアオイが知られているが、流水により1カ所に押し寄せられたり、陸地に上げた後腐敗しやすく2次公害を起こすことが懸念されている。インパチェンスやスペアミントなどは、使用した植物を家庭に配布しても喜ばれる</p> <p>**・T-Nの吸収速度が高い水耕栽培向き植物：スペアミント、ユリオプス・デージー  ・T-Pの吸収速度が高い水耕栽培向き植物：インパチェンス、ユリオプス・デージー</p>